

岡山ガス 現場から点検報告

複数部門でデジタル化推進

デジタル技術の活用による業務改善は、ガス事業者にとっても重要課題の一つだ。岡山ガスは昨年3月、NTTテクノクロスのフィールド業務改革ソリューション「わくレポ」の活用を一部の部署から開始した。これにより作業現場からの業務報告や帳票管理などをスマートフォンやタブレットで行えるようになった。現場作業の負担を軽減し、業務効率化を実現。今後、わくレポを活用する部署を広げ、さらなる業務改善を図る方針だ。

わくレポを採用した残業の要因になってい。票をそのまま生かせることは、岡山ガスの供給部だ。報告書の量も膨大に（約40ユーザー）と、営なり管理が大変だった。業設備部営業設備グループ（約20ユーザー）。供見直すため、わくレポ！給部はガバナーなどのガの活用を決めた。ペーパー工物の点検やメンテールレシ化を進め、報告書ナンス、緊急対応時のガ作成にかかる負荷の軽減ス管修繕などを行い、営を図っている。

こうしたフィールド業務を改善するための（現場）業務の担当者は、従来、点検チェックシートや検査票など紙の帳票を現場に持参してデータを取り、作業後に事務所に戻ってから帳票内容をパソコンに入力し、業務報告書を作成して上長に提出していた。現場で完了しないこうした作業が

運用変えず簡単導入

わくレポはフィールド業務を改善するためのアプリ。現場からタイムリーに報告ができ、報告書作成のための帰社を不要とし、直行直帰や残業の削減を可能とする。採用の決め手については、供給保安グループの河原敷課長は、「（報告書フォーマットの項目は）



点検に関する写真を撮影し、報告書に添付して送信できる

誰でも簡単に操作できること。この2点が特に大きかった」と話す。営業設備グループの林美生係長も使い勝手の良さを実感しているという。

わくレポでは、従来エクセルなどで作成していた帳票をインポ

ートして活用できる。各項目の入力は選択式で、操作が簡単。従来の運用を変えずに導入できるのが大きな特長だ。

今後、倉敷地区の保安担当者（約20ユーザー）もわくレポを活用していく。本社供給部と倉敷営業所供給グループはこれまで共通の帳票を使っ

ていて、従来の帳票をそのままわくレポで利用できる。同営業所での導入も円滑に行えるとしている。

複数業務で効率向上
供給部供給保安グループでガバナーなどの点検



業務報告を受ける管理者は写真付き報告書で現場の状況がよく分かる

簡単操作の「わくレポ！」を採用

業務を担当している小野君で約7〜8時間の作成間、印刷時間の削減になる。林係長は、「帳票を印刷して現場に持参する必要がなくなり、現場で直接入力ができるので、その分、業務時間の短縮につながっている。点検作業が終了する都度、進捗を報告でき、問題があればすぐに報告できる」と活用効果を話す。

同グループで導管修繕を担当する近藤美輝志氏は、「従来の帳票と異なり、誤ってエクセルの書式変更をしてしまったり、誤ってエクセルの書き込みがなくなり、作業効率を向上できる」と語った。1日に帳票を1枚作成すると、帳票1種類当たり年



（左から）宮脇係長、近藤氏、小野氏、林係長、河原敷課長

「わくレポ！」の特長

報告書フォーマットの各項目で選択入力し、現場から業務報告書を送信できる

業務管理者は、現場から送信される業務報告書をスマホで確認できる

スマホで撮影し、写真を報告書に添付できる。スマホに写真は残らない

フォルダ内のマニュアルや図面などを閲覧できる。拡大して見ることが可能



間、印刷時間の削減になる。林係長は、「写真付きの報告書も現場の全状況がよく分かる。報告書の不透明点について担当者迅速に確認できる」と話す。

今後、緊急対応の修繕作業報告を受ける管理側にとってもメリットは大きい。「紙による報告の過程で不在者がいると処理が止まってしまうこと」もなくなった。わくレポ！による撮影の位置情報も自動的に記録された。供給部の供給計画も、管理者は社外からも随時チェックでき、確認・承認のスピードも速い。

わくレポ！にはこのほかにも、機密性の高い資料（業務マニュアルや作業指示書、図面など）をクラウドで管理し、現場で閲覧できる機能もある（オプション）。現場への資料の持ち出しを不要とし、重要資料を紛失するリスクを抑えられる。スマホ本体に情報は残らないため、万が一スマホを紛失しても情報漏えいを防げる。

総務グループの宮脇一係長は、「1月には倉敷営業所のほか、ガス機器の修理を手掛ける営業設備部の修理センターも本格導入した（計約40ユーザー）。今後、改良を加え、さらに使い勝手を良くできるように現場の検討が進むかもしれない」としている。